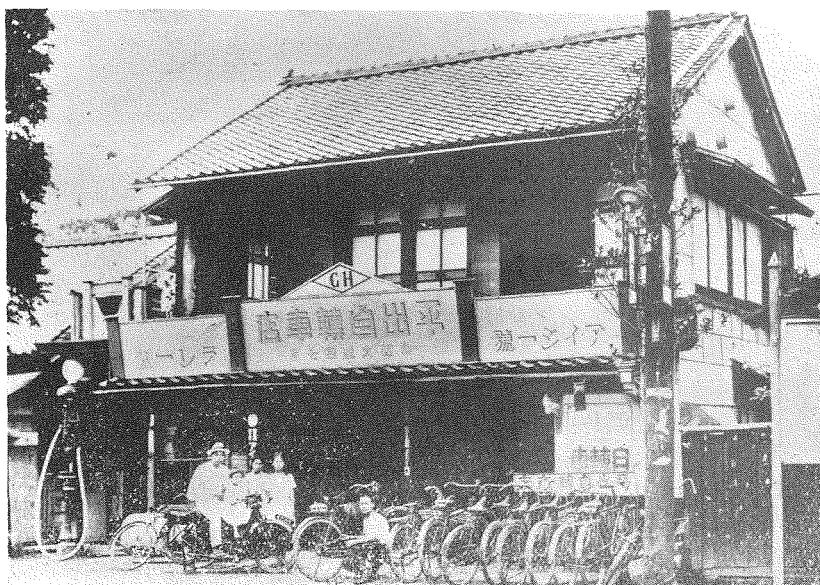
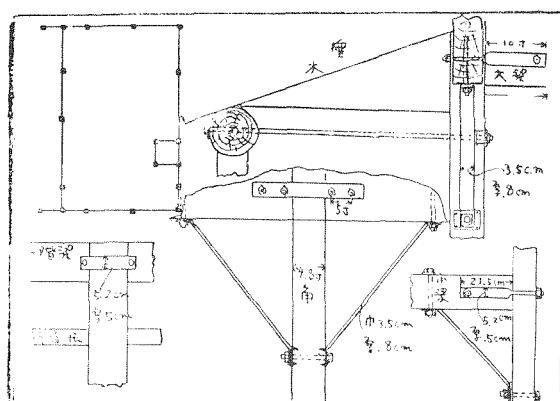


震災の伊豆を巡りて

東京帝國大學地震研究所 齋 田 時 太 郎



(1) 大地震に超えてゐた家 場所は駿豆鐵道の大場驛に近い。附近は倒壊家の多い處である。



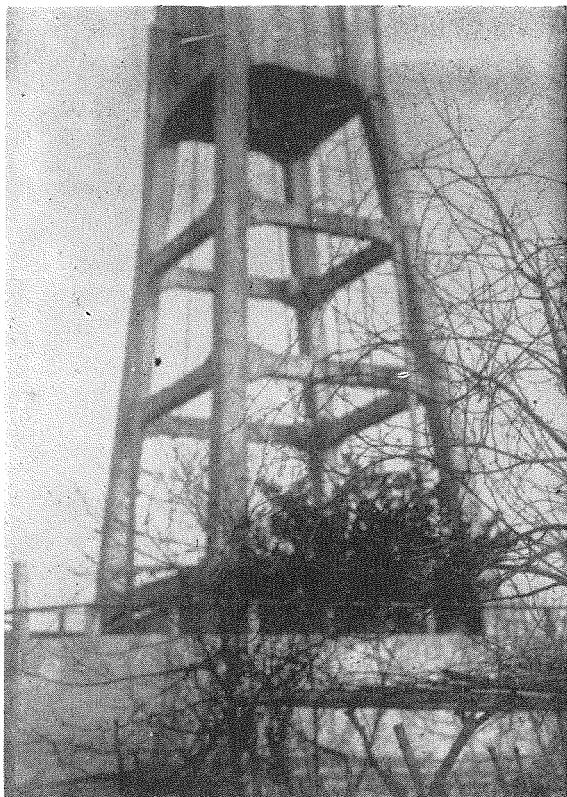
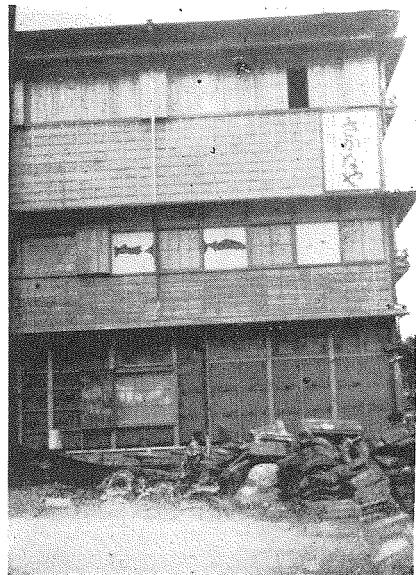
大正十二年九月の關東大地震の際に倒壊したので、同年九月から再建に掛かり同月に竣工した。補量金物は別圖に示す如く、柱と梁との取付等に用ひられてゐる。挿抜に平鐵を用ひてあるが、此は少し曲つた。此所はアングル鐵を用ひたら良つたと思はれる。ホールドの締着ヶ所なども適當でないが、それでも家根瓦一枚も落ちず、建具のタテ着けも狂はず、餘震頻々たる其當夜から一家安眠す

然も此の家屋が土臺石の上で1寸7分程ズリ出
してゐるが、損害は少しまなかつた。

(2) 長岡温泉で僅に一軒残つた家

長岡温泉は町家全部倒壊して最も惨害の激しい處であるが、二階建の倒壊が多い中に、此の高42尺の三階木造の旅館が一軒残つた。

鴨居や梁は金物で継付であるが、筋達は僅かに二階の壁に入れてあるだけ、家根は軽く柱との取付は相當入念にしてある。間仕切は少く、二階はフスマを取拂へば百疊敷の廣間となる程である。



(3) 三島町鐵筋混擬土造水橋

被害なし、丹後地震の際此の型の構造で、大阪に於て倒壊せるものあり。



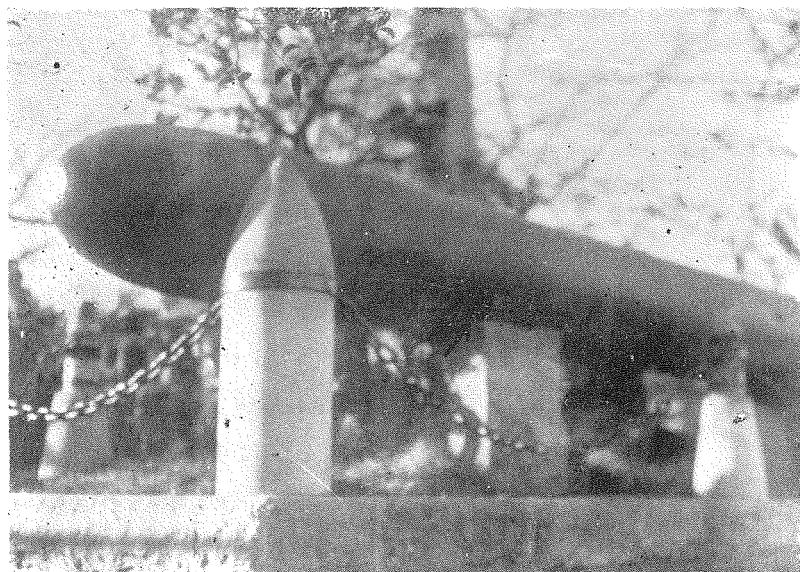
(4) 三島町
大社の寶物館

鐵筋鐵骨混擬土造
で小屋は鐵骨被害
なし。

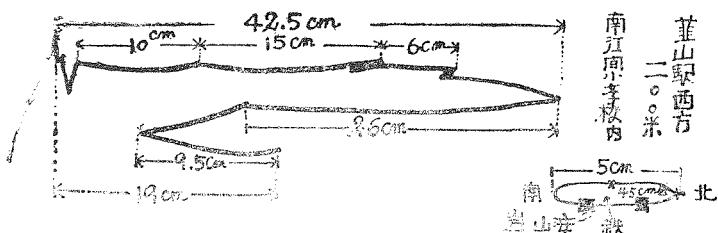


(5) 三島町成眞寺山門

鐵骨鐵筋混擬土造で屋根小屋は木
造であるが被害はなかつた。



(6) 南江間小學校
庭の魚型水雷
(上 とそれに
印された大地
動記象 下)



帝大地震學教室の今村博士は昨年十二月十二日、上野に於ける學士會總會の席上で、今度の伊豆地方大震に關し大略下の如く發表した。

去月26日以前及び後同地方四ヶ所で觀測した結果によると、今度の地震の主因は丹那断層に在るゝ云ふ説に對して、最激震地は箱根及浮橋青羽根の南北断層帶の沿線であり、丹那熱海等は單に此の緩衝地帯をつとめたに過ぎず、結局丹那断層の活動は、破壊的震動の主因を爲してゐないと云ふ結論を得た。

此の震度を調べる間に面白いことは、董山附近の南江間小學校の庭に、記念品として据置かれてゐる魚型水雷が其表面に忠實に地動を示す印畫を殘してゐたのを發見したことである。別に地動計を使はないで震源地の最初の大地動記象を得たことは他に類例がない。(上掲寫真及圖参照)

又別の論據から次の結論を推理してゐる。即ち断層系の西部地塊は東部地塊に對して北東に傾き乍ら南方へ移動したのであるが、その運動は断層系の中央附近で始まり、一方「丹那方面」を滑かに通過して、箱根に達し、他は南下して浮橋大野附近に達し、地震を發生したもので、地塊運動は凡そ九秒間に一巡したものと見られる。然し此推理は他の測量方法に依つて確かめなければつきりしたこととは云はれない。